

夏季特別講演会～神奈川県社会科に期待すること～

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 小倉勝登先生

【主な内容】

- ①問題解決的な学習のより一層の充実
- ②改善の方向性を意識した授業づくり
- ③内容の系統性・体系的な整理の必要性

①問題解決的な学習のより一層の充実「1時間ではなく、単元で考える」

社会的な事象との出会い → 学習問題をつくる → 予想 → 学習計画を立てる → 調べる → 持ち寄って考える
⇒ 同様の流れを毎単元繰り返していくことで、子どもたちが見通しをもって取り組めるようになる。

子どもたちにとってのゴールは、「学習問題の解決」、教師は学習問題の質を確保する。

②改善の方向性を意識した授業づくり

- ・学習問題を考え、問題解決の見通しをもつようにする指導の充実（入口）
- ・社会的事象の特色や意味を考え、説明したり、自分の考えを主張したりできるようにする指導の充実
- ・身に付けた知識や技能を使って一人一人が図や文などにまとめることができるようにする指導の充実
- ・社会に見られる課題を踏まえて、よりよい社会を考えるようにする指導の充実（出口）

③内容の系統性・体系的

- ・社会情勢(地域社会)の変化や外国とのかかわりをふまえて、教育内容の見直しを図る。